



幼保小連携事業について

**流山市教育委員会学校教育部指導課
幼児教育支援センター**

1 流山市幼児教育支援センターとは

事業の目的

- (1) 幼児教育・架け橋期の教育の充実と推進**
- (2) 幼児期のこどもを持つ保護者の方の子育て支援**
- (3) 市内全体の幼児教育の理解促進**

2 幼保小の連携・接続事業について

流山市教育振興基本計画

学びに向かう力と自立するこどもを育む

- 「自立」するこども
- 主体的に学ぶ力
- 経験や体験を通して
自ら問題を解決できる力

国の動向

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）

別添1

		0歳～	5歳児												小学校1年生												小学校2年生～
共通の視点として 考えられる項目例			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
①期待する子供像																											
②遊びや学びのプロセス																											
③園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等																											
④指導上の 配慮 事項	先生の 関わり		5歳児～小学校1年生（架け橋期。0～18歳の学びの連続性に配慮）について。 ・ 共通の視点から考えてみよう ・ 既存の5歳児4月からの教育課程・指導計画を見直してみよう（架け橋期のカリキュラムにおける5歳児のカリキュラムの位置づけについても考えてみよう） ・ 既存の小学校1年生の教育課程・指導計画を見直してみよう（架け橋期のカリキュラムにおけるスタートカリキュラムの位置づけについても考えてみよう）																								
	子供の学びや生活を豊かにする園の環境の構成・小学校の環境づくり（※） ・・・																										
⑤子供の交流																											
⑥家庭や地域との連携 ・・・																											

5歳児～小学校1年生（架け橋期。0～18歳の学びの連続性に配慮）について、

- ・共通の視点から考えてみよう
- ・既存の5歳児4月からの教育課程・指導計画を見直してみよう（架け橋期のカリキュラムにおける5歳児のカリキュラムの位置づけについても考えてみよう）
- ・既存の小学校1年生の教育課程・指導計画を見直してみよう（架け橋期のカリキュラムにおけるスタートカリキュラムの位置づけについても考えてみよう）

架け橋期カリキュラムとは・・・

幼保小の先生方が、共通の視点を持ち、相互の教育内容や教育方法の充実を図るために協働して作成するカリキュラムのこと。

3 本市における 架け橋期カリキュラム作成に向けて

(1) 流山市架け橋期カリキュラム 推進会議発足

【目的】

市内の架け橋期の教育・保育に関する実態について話し合うとともに、各校・園での架け橋期カリキュラムの作成、普及に向けた議論を行う。

【構成員】

- ・有識者(大学教授)・小学校長代表・小学校教諭代表
- ・私立幼稚園代表・公立幼稚園代表
- ・私立保育園及び認定こども園代表・公立保育所代表
- ・児童福祉施設等の代表 ・子ども家庭部及び教育委員会の職員

第1回推進会で議論された 架け橋期カリキュラム作成の方向性

- 大きな枠にはめ込むのではなく、地域性を大事にし
ながら、幼保小が話し合いながらカリキュラムをつ
くることが重要。
- 職員が変わっても継続できるような仕組みづくりと
架け橋期カリキュラムの必要性に関して広く周知す
ることが必要。

(2)令和7年度の市教育委員会としての方向性

①「架け橋期カリキュラム」の必要性に関する
意識啓発

②幼保小の連携体制の構築

①「架け橋期カリキュラム」の必要性 に関する意識啓発

架け橋カリキュラム作成の手引き(初版)

「架け橋期」の
こどもの育ちについて話し合おう
～「架け橋期カリキュラム」作成に向けて～



浜山市は、急激な幼児・児童数の増加に伴い、幼児教育・保育施設が増加しており、こどもたちを取り巻く環境が大きく変化しています。また、学校現場では、「令和の日本型教育」へのアップデート及び「多様化」への対応など、大きな変革期を迎えています。

浜山市のこどもたちが、自分らしさを発揮して、輝けるように…
 幼児期に「遊び」をとおして小学校以降の「学びの芽生え」を育む…
 小学校ではさらに、一人一人のこどもたちが主体的に学び、経験や体験を通して自
 ら問題を解決できる力を伸ばしていく…

幼児教育と小学校教育をつなぐ、「架け橋期（5歳から小学校1年生までの2年間）」の教育について、幼保小が連携して一緒に考えていきませんか？

流山市教育委員会
流山市架け橋期カリキュラム推進会議
(令和7年3月発行)

遊びは学び！ 学びは遊び！ 育ちを共に見つめ語り合おう

幼児期のこどもたちは、自主的・主体的に人々やものと関わりながら、遊びを通して必要な能力や態度を獲得 しています。遊びの中で、試行錯誤しながら、幼児期のこどもたちは「学びの芽生え」を育み体験を重ねています。小学校が「ゼロ」からのスタートではないのです。幼児期の豊かな学びと成長を踏まえて、こどもたちが主体的に自己を発揮できるように、小学校が幼児教育・保育から学ぶ。幼児教育・保育施設が 小学校を創造す。それぞれの教育の内容を充実させるために、まずは、思いを語り合うことから始めよう。



【おらい】
船の帆を使って、おもいっせに帆走することを楽しむ。
【世間の内恋】 大きな船所に手のひらにのびい船って、
お船と一緒に遊んで遊ぶ。
（船のなまけと世間、男同性）



- 手や膝を痛めて長く気持ちよさを味わう。
【主眼的に手や膝に効く呼吸法】
- 手や膝を痛めて得意な工夫をする。【知識及び技術】
- どうと云ふの真でほしいによりものを求める。
【精神力・判断力・想像力】

手のひらでドン！
胸でトントン！
腰の骨ができた。
そうだ、腰の
ピクニックを催そう！



この穴に入
れると 10
歳だよ!



まん丸ドングリは
お肉みたい！
鶏さばき入れて
おいしいスープ
をつくらうよ！

にんじんも入れた
いな！黄色い
葉っぱも肉こう
におったよ！とこ
でござるよ！

【作り方】
食器を器底の裏面に塗き、器口に裏入れする。
【器底の内部】木の裏や木の裏を使った器底はここの裏を塗り、
（器底の内部）木の裏や木の裏を使った器底はここの裏を塗り、
（器底の内部）木の裏や木の裏を使った器底はここの裏を塗り、

幼年期【学びの芽生え】

小学校【自覚的な学び】

見学会【保育所(園)・幼稚園・認定こども園】

こどもの学びをつなげる職員間の連携

合同研修・幼保小の垣根を超えた対顔



幼稚園にたくさんの
ことを経験している
ことに改めて気づき
ました。増った力を、
小学校でも生かせる
ようにしたいです！
(小学校就学)

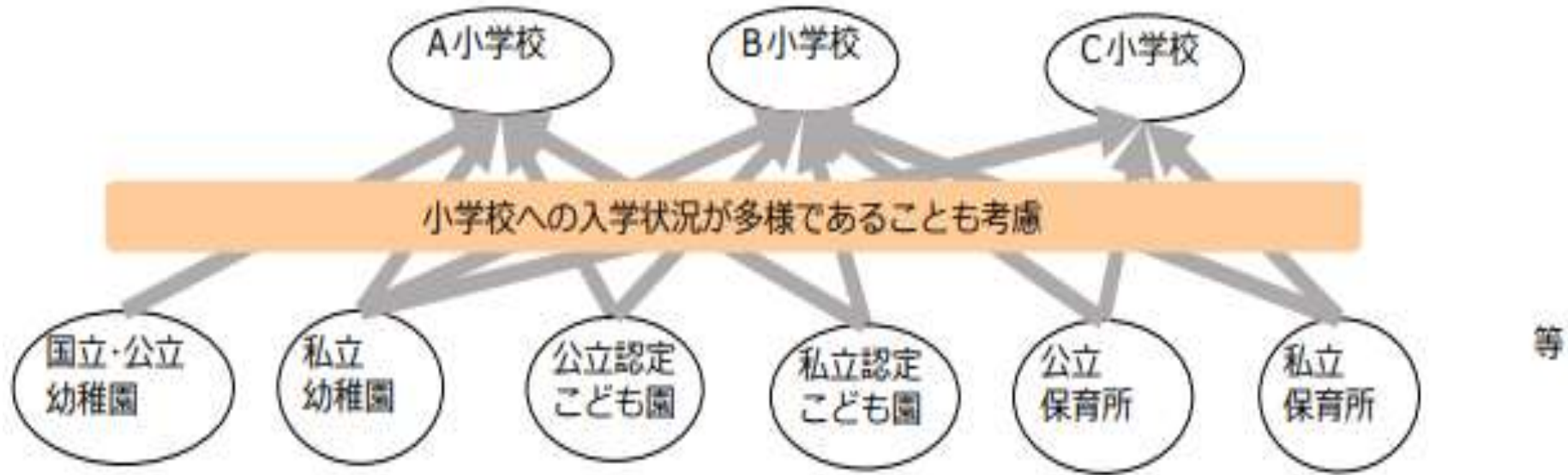


幼児期から小学校
つながる土台の基
を共通理解して、
みんなでこどもた
ちのために考えたい
す。(幼稚園職員)



小学校の各教科の学習と画でのすべての遊びとがつながっていることに気づきました。(佐藤 義典)

②幼保小の連携体制の構築



継続的な連携・協議等が欠かせないが、
複数の園や学校と、個別にやりとりすることは、事務的な負担が大きい

「幼保小連携の日」の設置

小学校区を中心に特定の日を設け、**小学校の教職員と幼児教育・保育施設の職員とが、相互に交流し**、各校・園の架け橋期のカリキュラムの見直し・作成ができるよう、意見交換を行う。

※園児が就学する小学校すべてと連携する必要はありません。

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)より

2-(6) 進め方のイメージ

注：基盤づくりから改善・発展サイクルの定着に至るまでのプロセスの目安。実際には、地域の実態に応じ、各フェーズ間を行きつ戻りつしながら発展していく。



令和7年度は、
「顔の見える関係づくり・つながりの構築を目指す」

架け橋期のカリキュラム

園・小学校

○接続を見通し、各園・小学校で教育課程編成・指導計画作成
・園・小学校での活動の共有
・子供の交流

○各園・小学校での体制
・連携窓口の明確化
・自園・自校の先生への意識啓発と参画

○架け橋期のカリキュラムの検討・開発
・共通の視点をもとに内容の検討・開発
・人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の共通性の理解
・子供の交流の推進

○幼保小間の体制
・幼保小の合同会議の設置
・相互の教育の内容や方法に関する理解の共有

○架け橋期のカリキュラムの実施・検証
・園・小学校において教育課程編成・指導計画作成、実施・検証
・人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用
・子供の交流の充実(子供の自発的な交流等)

○幼保小の協働実施の体制
・幼保小の合同会議の充実
・相互の教育の内容や方法に関する理解の深化

○持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム
・持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム
・人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用の充実
・持続的・発展的な子供の交流実施(子供の自発的な交流等)

○持続可能な体制
・幼保小の合同会議の定着
・相互の教育の内容や方法に関する理解の改善・発展

実施に必要なこと

自治体

○連携強化への支援
・研修の実施(幼保小合同研修等)
・自治体内の関係部局との連携

○接続に向けた支援
・研修の推進、研修教材の開発
・関係機関との連携を深め、園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネート

○幼保小の協働実施の支援
・研修の充実、研修教材の活用
・実施上のニーズの把握と支援
・園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネートの充実

○持続的・発展的な取組を支える支援の定着
・研修の改善・発展、研修教材の改善・発展
・必要な支援策の改善・発展
・園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネートの改善・発展

令和7年度「幼保小連携の日」のイメージ

□園長・校長間、教職員間の関係づくり

- ・園パンフレット、学校要覧等を持ち寄り、育てたいこどもの姿を共有する。

□各校のテーマに応じた情報交換を行う。

(例) ・スタートカリキュラムで取り組んでみたこと、悩んでいること

- ・こどもたちが主体的に取り組んでいる活動やその工夫

- ・こどもが困っている時の支援策や環境構成について

- ・こども同士の交流で取り組んでみたいこと

今後とも、幼児教育支援センター事業 へのご理解ご協力をお願いいたします。

